

第1回中央委員会

～2014年度第4四半期会計決算

第88回定期大会に係る議案等が決定された～

二〇一五年九月九日（水）アークホテルで第一回中央委員会が開催された。冒頭、瀬戸高志執行委員長が、日々の組合活動への感謝を述べ、安保法制の強行採決や原発再稼働について情勢報告に立った。また、人事院勧告にも触れ、四半世紀ぶりに二年連続の引き上げとなったが、我々地方公務員は、給与制度の総合的見直しなどが残っており、秋の確定闘争を本格化させ、市労連交渉での積み重ねが重要であるとし、予断を許さない状況だと説明がされた。さらに四条通りの歩道拡幅工事についても言及し、連日、市バスが渋滞を引き起こしているような報道がされているが、交通局の責任ではない。我々は、公共交通優先のまちづくりを推進し、門川市政に協力すると挨拶に立った。続いて、報告事項に入り、九月日程報告、自治労関係では、二〇一五年人事院勧告についてなど九項目の報告、対局関係では、団体交渉についてなど六項目の報告がされた。共済組合関係ではジェネリック医薬品の利用促進をはじめ三項目の報告がされ、その他では、京交再建七〇周年記念事業実行委員会から十項目が、それぞれ報告がされた。次に、議案に入り、二〇一四年度第4四半期会計決算並びに監査報告、第八十八回定期大会に係る議案等、組合書記契約更新、専従役員補償について提案がされ、満場一致で確認された。最後に全員で十月九日の京交定期大会及び京交再建七〇周年記念事業を成功させることを確認し、第一回中央委員会を閉会した。



駅務支部
レクレーション報告をする
辻川啓司書記長



挨拶をされた
瀬戸高志委員長



京都交通労働組合

電話(075)841-0948

発行者 瀬戸高志

編集者 梅田涼

第88回 自治労定期大会報告

・・・「たくましく・しなやかに・たえまなく」を
スローガンに2年間の運動方針が決定・・・

二〇一五年八月二十四日から二十六日の三日間に亘り、石川県金沢市いしかわスポーツセンターで第八十八回定期大会が開催され、全国から傍聴を含め四三〇〇人が参加した。冒頭、今大会で退任される氏家常雄中央執行委員長が挨拶をされ、人事院・人事委員勧告への戦略的対応について、引き上げ勧告の確実な実施を求めるが、人勧制度を信頼しきって対応するだけでは、賃金は守りきれないこととされ、労使交渉を軸とした賃金決定を基本に、人勧制度を前提としつつも、この間の経過や国公との制度的・実態的差異に着目し、独自性を重視した賃金闘争を展開すると述べられた。その他に労働者保護ルール解体を狙い、安保法案採決を阻止するたに平和フォーラムの「戦争させない一〇〇人委員会」を集結させ、法案撤回を求めると述べられた。最後に安倍政権に対峙できる体制を再構築させるために次の参議院選挙での「えさきたかし」の再選に総力を尽くすと絞められた。その後、連合古賀会



4千人が参加した会場の様子

長をはじめ、民主党岡田代表など多くの来賓者が挨拶をされた。続いて、一般経過報告、一般会計、監査報告、共済報告が提案され承認された。次に第一号議案二〇一六年度運動方針（案）をはじめとした第六号議案規定の一部改正について（案）までが提案され、一日目の議案提案に対する質疑討論、当日配布された役員選挙投票案について質疑がされ終了した。三日目は、引き続き質疑がされ、その後、予算小委員長報告に続き、総括討論がされた。次に第一号議案から第六号議案がそれぞれ採決された。続いて、特別中央執行委員長などの選任についての提案・採決が行われ、新たに川本淳中央執行委員長（北海道本部）と福島嘉人書記長（神奈川県本部）が選任され、引き続き京都府本部高橋直樹委員長が監査委員に選出された。その後、大会宣言（案）が提案され、採決された。最後に参加者全員で団結ガンバロウが力強く行われ閉会された。



傍聴席から真剣に大会を見つめる執行委員



自治労総合都市交通局関西ブロック連絡会 第3回総会

二〇一五年九月二日（水）三日（木）浜松市 浜名湖ロイヤルホテルで、自治労総合都市交通局関西ブロック連絡会第三回総会が開催された。京交からは瀬戸高志執行委員長をはじめ五人が参加した。冒頭、中山久雄議長（大交）から都市公評を衰退させることなく、前進に向けた取組を推し進めていき



挨拶をされた
中山久雄議長

たいと挨拶があり幕が開けた。続いて、国土交通省総合政策局の桑田龍太郎交通政策企画官を講師に迎え「交通政策基本計画の取組状況について」講演が行われ、①国の交通政策の動向②地域公共交通の取組の先進事例③関西地域における地域公共交通の状況が具体的な例題の紹介も交え、わかりやすく説明された。

二〇一五年九月六日（日）さよなら原発全国集会が梅小路公園で行われた。あいにくの雨にも関わらず、原発再稼働反対を訴えるために全国から約五五〇〇人が集結した。京交からも一〇〇人の組合員が参加した。チェルノブイリの原発事故やスリーマイル島の事故を教訓に出来ず、東北大地震により、福島では悲惨な原発事故が起きた。四年半以上過ぎた現在でも十万人を超える方が全国で避難生活を強いられ続けている。集会では、主催としてチェルノブイリ、フクシマ京都実行委員世話人の佐伯雅和さんが挨拶され、嘉田由紀子前滋賀県知事をは



報告をされた
佐田悟書記長



プラカードを掲げ再稼働反対を訴える組合員

じめ多くの方々が原発再稼働反対のスピーチを行った。続いて、高浜・川内、伊方から現地報告がされた。ひとたび原発事故が起きれば、膨大な放射能が撒き散らされ、人々の生活が破壊される。元の生活を取り戻す事は決して出来ない。と強く訴えがされた。最後に原発再稼働阻止に向け参加者全員で「ストップ！原発再稼働」のプラカードを掲げ閉会した。

堂下直也 電車副部長



文化体育事業 夏休みの「ひえひえ体験」報告

水鉄砲で
河童に水
をかけら
きたり、
が降って
上から水
が降り、
柱が吹き
上り、頭
から水
が吹き



～びしょ濡れに～

夏休みもそろそろ終わりに近づく八月二十三日(日)に第一回文化体育事業太秦映画村体験二日目が行われました。約二五〇名の家族が団体専用の入り口前に集合し、集合写真を撮影後、それぞれ目的のアトラクションや、ショウを楽しみに行きました。私自身、映画村に足を踏み入れるのは約三〇年ぶりです。その変貌に驚かされました。現在では大人も子供も楽しめるテーマパークになっています。特に人気を博していたのは、夏休み限定で開催されているひえひえ王国「チャンバラ水の陣」でした。水の演出を取り入れ、人間に悪

二〇一五年八月二十一日(金)第一回文化体育事業の一日目、太秦映画村見学体験が開催され潜入取材をして来ました。心配されていた天候は、あいにくの雨模様でしたが、集合時間には上がり、午後からは晴天に恵まれて大変暑くなりました。早速、中央広場の前で参加者全員が集合して記念撮影を行い体験が始まりました。それぞれ、家族で自由に映画村を体験され、楽しんでいました。映画村は、近くにあるにもかかわらず、来るのが初めてといった方も多く、時代劇の撮影が行われる江戸の町並みや、チンチン電車が展示してある明治時代の通り等を興味心身で見学していました。その他に、アトラクションを体験して様々な時代の雰囲気を楽しんでいました。中でも、夏のひえひえイベントの「チャンバラ水の陣」では、ウォーターキャノンから水が吹き柱が吹き上がり、頭から水が降り、水鉄砲で河童に水をかけら

二〇一五年八月二十一日、二十三日の二日間で第一回文化体育事業の太秦映画村参加体験が実施されました。両日で三八〇人以上が参加し、家族と一緒に映画村のアトラクションを体験し、それぞれ、夏休みの楽しい思い出を作りました。



・・・1日目の参加者・・・

れたり笑いとアクションがふんだんなチャンバラショーが行われていました。参加した子供たちは、びしょ濡れになりながら大変喜んでいました。今後とも家族で楽しめる企画を実施して欲しいと思います。

教宣部員 江谷 孝行



・・・2日目の参加者・・・

さする妖怪をこらしめる妖怪退治屋、十兵衛を主人公にしたチャンバラショーには笑いとアクションがふんだんに盛り込まれています。ステージに取り付けられたウォーターキャノンから噴き上げられる水柱、出演者が観客に絡んで水をかけまくり、皆でびしょ濡れになって大人も子供も楽しめる内容となっていました。その他に、忍者衣装に着替えて忍者修行をしたり、迷路に行ったりと参加者はそれぞれに家族と楽しい時間を過ごし良い休日になったと思います。次の企画も楽しみです。

教宣部員 佐藤 真



～巨大忍者と対決～

教宣部員のつぶやき



今回は「東九条マダン」についてつぶやきます。マダンとは、韓国・朝鮮語で「ひろば」という意味です。この広場に国籍や年齢を問わず、障害を持った方もみんなで一日楽しもうとはじまったお祭りです。今年で二十三回を迎えます。この一日にそれぞれの立場の人々が出会い、お互いを知るきっかけになっています。近年では近所付き合いが少なくなった昨今、人と人がふれあえる場として地域の方やそれ以外からもたくさんの方々が来場されます。韓流ブームも去り、東アジアでは領土問題で緊張が高まり、国家間の問題は日本に住む在日外国人にとっても、差別や偏見を受け生活を脅かす問題になっています。ですが、対個人同士付き合えば同じ人間分かります。そこが出来る場所。お互いが出会い、楽しいところから始め、そのきっかけになる祭りであると思います。今年は十一月一日(日)に南区東九条の元・陶化小学校で行われます。色んな国の食べ物や物品の販売、楽器や美術作成の体験、舞台では終日催し物が上演されます。今年の目玉は韓国から綱渡りの人間国宝が来日します。それ以外にも一〇〇人での楽器演奏、和太鼓とサムルノリ(韓国打楽器)のコラボ等も見所です。一般参加ののど自慢やダンス演目などもいくつかございます。それに会場を飾る美術品はすべて手作りです。ちなみにこの祭りは毎年五千人もの人が訪れます。私は今年も実行委員長として本部席にいます。声を掛けて頂ければ会場案内致します。みなさんは是非一度ご来場頂きまわりを体感して下さい。

教宣部員 福本 泰市



～ 昨年の様子～

脳に刺激を！ 超難問？ ナンプレ

「ナンプレ」のコーナーです。ちょっと一息！頭のリフレッシュしてみませんか？下記のマスに全部埋めてください。正解者の中から抽選で三人の方に「全国百貨店共通商品券」千円分をプレゼントします。どしどし応募してください。このナンプレが解けた方は、支部名、コード番号、名前、機関紙に対するご意見ご要望等を記入の上、京交本部教宣部機関紙編集チームまでお送りください。締め切りは十月二十三日(金)必着です。なお当選者の発表は次号以降の機関紙「京交」で！

2			6		4	7
1				5		
		3			6	
5						9
				8		2
		8			1	
			4			3
3	9			5		6

ナンプレ 京交697号解答

4	8	1	7	3	2	5	6	9
5	9	7	1	8	6	2	4	3
3	6	2	4	9	5	1	8	7
2	1	4	9	6	7	8	3	5
8	3	5	2	4	1	7	9	6
9	7	6	8	5	3	4	2	1
1	2	3	6	7	4	9	5	8
6	4	9	5	1	8	3	7	2
7	5	8	3	2	9	6	1	4

当選者氏名 (敬称略)

尾形 彰(本局支部)
満島 宗樹(烏丸乗務支部)
山本 雄基(九条支部)

From みぶ

首都圏の下宿生、一日の生活費八九七円

首都圏の私大生(下宿生)の一日あたりの生活費は八九七円。これは東京私大教連の調査結果で、比較できる一九八六年以降、初めて九〇〇円を下回った。保護者からの仕送りも過去最低となっており、深夜にアルバイトをしたり、食費を抑える学生も増えているという。就職のことを考えると首都圏の大学が有利といえるが、地方に比べ家賃が高く、その分、生活費にシワ寄せがいつてしまうようだ。

